【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1311H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
（文化財活用センター）
イ　企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し提供する。文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。

担当部課	本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（４館共通）
イ
・企業等との連携や共同研究プロジェクトの締結を引き続き行い、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。
・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を各地で提供したほか、企業等への高精細複製品貸出事業や、教育機関を対象とした複製品による教育プログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。

【補足事項】
（４館共通）
イ
・30年度に締結したキヤノン株式会社、凸版印刷株式会社とは契約を継続し、新たにシャープ株式会社との共同研究プロジェクトを締結した。
・「国宝 聖徳太子絵伝」の高精細画像を使用した映像による作品鑑賞コンテンツの英語対応の改修を行ったほか、「法隆寺献納宝物伎楽面 迦楼羅・呉女」、着付け体験用の小袖・振袖（「見返美人図　菱川師宣筆」に描かれるきものと帯、「重要文化財　小袖 白綾地秋草模様　尾形光琳筆」、「重要文化財　振袖 白綾地衝立鷹模様」）の復元模造、「重要文化財　風神雷神図・夏秋草図屏風」「国宝　花下遊楽図屏風」「見返り美人図」の高精細複製品を制作した。「伎楽装束　裳・袍」は引き続いて制作を行い、そのほか「重要文化財　遮光器土偶」「みみずく土偶」のハンズオンレプリカ、日本文化を紹介する映像コンテンツの制作を開始した。
・昨年度開催した企画展示「なりきり美術館」を、九州国立博物館（8月6日～10月14日）と、富山県美術館（8月10日～10月20日）2か所で開催。九州国立博物館では会期中（62日間）88,214人、富山県美術館では会期中（60日間）33,140人の入場者がコンテンツを体験した。
・企画展示「8Kで文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」（10月29日～11月24日/27日間）を開催し、19,293人がコンテンツを体験した。満足度調査では87.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・複製品の貸し出しや、複製品を使用した教育プログラムの提供（アウトリーチ）を実施し、貸し出しは8件、教育プログラムは10件で約1,250人が体験した。
・公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」を11月23日に開催。一般から206名のお客様のご参加があり、アンケート結果では98.9%から「とてもよい/よい」の評価を得た。また、同日にギャラリートーク「国宝『聖徳太子絵伝』－微笑みの太子に出会うー」を開催。168名が参加した。

九州国立博物館「なりきり美術館」

8K で文化財 国宝「聖徳太子絵伝」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	149回	－	－	経年変化	－	－	－	91
体験型プログラム等参加者数	140,647人（九博富山8K）	－	－		－	－	－	98,791

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げ、年度計画を達成したといえる。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財のレプリカ製作のほか、学習機会の拡大や新規事業の展開などにより、中期計画に沿って、順調に、学校や社会教育関係団体、国内外の博物館などとの連携協力を推進している。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）※イ、ウは後述
ア　文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
エ　トーハク新時代プランに基づき、外国人を対象とするガイドツアーの拡充のための準備を行う。
オ　トーハク新時代プランに基づき、有料プレミアムツアーを導入する。
カ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり 総務課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（４館共通）
（東京国立博物館）
ア、カ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとして体験型プログラム「日本文化体験」を元年度も企画実施した。円滑な運営のため外部スタッフへの研修も行った。参加者の鑑賞を深める手助けができ、満足度も非常に高かった。
エ　外国人向けギャラリーツアー及び日本文化体験ツアーの実証実験を実施した。
オ　会期末の混雑が予想される特別展で、音声ガイド・図録付きで通常の開館時間より 30 分早く入館できるプレミアムチケットを販売した。
カ　聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、大講堂・東洋館ミュージアムシアター・レクチャースペースにヒアリングループを設置し運用を行った。また音声認識アプリ UD トークを運用した。

【補足事項】
（４館共通）ア及び（東京国立博物館）ア
・講演会20回　参加者数6,051人
　内訳　①月例講演会10回、参加者数2,630人　②記念講演会7回、参加者数2,591人
　③シンポジウム2回、参加者数575人　④テーマ別講演会1回、参加者数255人
　⑤その他講演会0回、参加者数0人
・列品解説（ギャラリートーク等）71回、参加者数4,791人
　内訳　①ギャラリートーク32回、参加者数3,038人
　②特別展関連ギャラリートーク2回、参加者数345人
　③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク、8人37回、参加者数1,408人。
・連続講座1回（2日）参加者数645人
・公開講座5回、参加者数204人
・その他展示に関連する事業52回、参加者数12,604人

月例講演会

ア、カ　日本文化体験
「書体験」　11回(11日間)　参加者数1,466人（うち外国人1,198人）
「よろい体験」　15回(15日間)　参加者数365人（うち外国人91人）
「留学生のためのきもの体験」　2回　参加者数40人（うち外国人40人）
「浮世絵摺実演」　2回（1日間）
オ　御即位30年記念特別展「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」　開催4日間　応募者総数　56人

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	97回	128回	D		146	160	125	93
講演会等の参加者数	11,691人	－	－		18,080	21,453	21,692	12,206

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 講演会等、「日本文化との出会い」プログラムなど、順調に開催されている。 新型コロナウイルス蔓延防止のため、講演会等が中止となり、開催回数は目標値を下回ったが、プレミアムチケット販売等新しい試みにも挑戦した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「上野の山で動物めぐり～ツノのある動物」、「博物館でアジアの旅スペシャルツアー」、「保存と修理のツアー」「日本文化体験」など、さまざまな形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。
(ア)ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集「親と子のギャラリー　ツノのある動物」(4 月 16 日～5 月 26 日) 37 日間
・特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」(7 月 17 日～9 月 23 日) 61 日間
(イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(3 月 12 日～4 月 7 日)、「博物館でアジアの旅」(9月 10日～10月 14 日)、「博物館に初もうで」(2年 1月 2日～1月 27日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
(ウ)体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展に関連した一般向け・ファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
イ　総合文化展を中心とした展示や、作品に関連したプログラム等を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。
(ア)特集「親と子のギャラリー　ツノのある動物」では、ツノのある実在の動物や空想の生き物をテーマとする文化財を展示した。若年層の家族層にも親しみやすく、また分かりやすくなるように、平易な言い回しによる解説やグラフィックパネルを使用するなどの工夫を行った。また、当館、国立科学博物館、上野動物園の三館園をめぐるツアーを実施し、ツノをテーマに各館園の作品を通じて文化史や生態に対する子どもたちの理解を促した。
特集「親と子のギャラリー　日本のよろい！」では、収蔵品の甲冑と共によろいの各パーツの制作見本を展示し、日本のよろいの種類や構造をわかりやすく示した。題箋、解説は4か国語に対応し、平易な言い回しや図解を用いてテーマへの理解を促した。また、セットで体験してもらうよう日本文化体験スペース「日本のよろい！」を階下（特別4室）に設け、ハンズオン展示やよろい着用イベントを通じ、来館者の体験と理解をさらに深めることを目指した。
(イ)講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及びぬりえ、衣装体験、ヨガなどの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。
(ウ) 本館19室や東洋館オアシスの体験型アクティビティは、ラグビーワールドカップ期間中を中心に、例年よりも外国人の参加者が際立って多かった。特に「東洋館オアシス―アジアの占いコーナー」はパネル類を4か国語表示に変更したことから、アジア系の来館者も参加しやすくなったようである。

【補足事項】
・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り、495件の応募があった。そのうち一般の部6句、小学生以下の部2句については、顕彰し、記念品を贈呈した。
・親と子のギャラリー「日本のよろい！」は、日本文化体験「日本のよろい！」と合わせて144,733人の入場者があった。関連ワークショップ「おどし体験！」(3回50人) を実施した。
・体験型プログラムとして、本館19室（155,241人）及び東洋館でのハンズオン展示(54,230人)、ワークショップ(20回1,229人)、親と子のギャラリー(98回、144,733人※回数は2企画の合計、人数は「日本のよろい！」のみカウント)を実施した。本館19室・平成館考古展示室・東洋館のハンズオンは、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、2/22～3/16休止。
・夏休み期間の8月4日に総合文化展(本館、考古展示室)で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催し、未就学児、小中生合計5,139名が参加した。

「親と子のギャラリー　日本のよろい！」会場の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	671回	－	－		1,042	827	703	702
体験型プログラム等参加者数	360,572人	－	－		198,393	199,167	272,867	309,901

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 体験型プログラムを671回実施(360,572人参加)し、年度計画を順調に達成している。加えて元年度夏休み時期の親と子のギャラリーは入場者が14万人を超えた。参加体験型展示に関する調査研究という点でも良い事例となった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調に、外部団体との連携協力を行いながら講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等の学習機会を提供している。これまでの経験を生かしてより充実した事業を目指したい。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A3

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ウ
・職場体験の申込方法を検討し、電話での申込から、元年度からはウェブサイト上のフォーム申込と電話の併用に変更した。そのことが教員のニーズに合い、申込数の増加につながった。
・元年度も学校との連携事業を計画通り実施した。スクールプログラムは学年、人数、目的に応じた15のコースを設け、パンフレット、ウェブサイト、教員研修の場で告知し、ウェブサイト、ファックスで申込を受け付けた。児童・生徒の鑑賞体験の充実に寄与し、日本・アジアの伝統文化への関心を高め、理解を促した。
エ
・外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」を継続的に企画運営した。外部スタッフの協力を得て、運営を円滑にし、参加者の体験をより豊かにするためスタッフ研修も実施した。参加者の満足度は非常に高く、展示作品に関する関心を高めることにも寄与できた。
・聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、レクチャースペースでヒアリングループの運用を行った。また音声認識アプリUDトークの導入を行った。

【補足事項】
ウ　スクールプログラム　174校6,049人（小学校19校692人、中学校98校3174人、高校57校2183人）
　　盲学校のためのスクールプログラム　4校37人
　　教員研修　3回567人
　　職場体験　24校76人
エ　日本文化体験「書体験」　11回(11日間)、参加者数1466人（うち外国人1198人）
　　日本文化体験「留学生のためのきもの体験」2回（1日)、参加者数40人（うち外国人40人）
　　日本文化体験「浮世絵摺り実演」　2回(1日間)97人　英語通訳実施（うち外国人72人）

スクールプログラム実施風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
スクールプログラム実施回数	174回	−	−		211	227	273	228
スクールプログラム参加者数	6,049人	−	−		8,261	7,910	10,056	8,895人
職場体験実施回数	24回	−	−		19	19	20	20
職場体験参加者数	76人	−	−		60	63	63	63
教員を対象とした研修実施回数	3回	−	−		6	6	6	5
教員を対象とした研修参加者数	567人	−	−		585	235	513	465
印刷物	477,000部	−	−		42,000	30,000	37,000	177,000

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 174回のスクールプログラム、24校の職場体験の受入れなど、学校との連携事業を幅広くかつ順調に実施し、年度計画を達成している。職場体験の申込方法を変更し、ウェブサイト上のフォーム申込を加えたことで、申込数の増加につながった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 学校や東京都等との連携協力の下、スクールプログラム、職場体験、教員研修などの学習機会の提供を行い、中期計画に順調に取り組んでいる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ア　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　京都国立博物館においては、28回の講演会等を開催した。

記念講演会（講師：長澤昌幸）

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」（4月13日、講師：大正大学専任講師　長澤昌幸ほか）、（9回・1,465人）を実施した。
・「土曜講座」（7月6日、講師：主任研究員　末兼俊彦ほか）、（13回・1211人）を実施した。
・「夏期講座（日本人と自然Ⅰ）」（7月26日～27日、講師：京都市芸術大学　准教授　深谷訓子ほか5名）（1回・201人）を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」（8月20日、講師：主任研究員　呉孟晋）（1回・50人）を実施した。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トーク（8月4日、講師：前アソシエイトフェロー　安部真里奈）（2回・54人）を実施した。
・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団との共催で、研究発表と座談会「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」（4月20日、発表者：研究員　井並林太郎ほか）（1回・121人）を実施した。
・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会を振り返る-成果と課題-」（2年2月11日、講演：国立民族学博物館長　吉田憲司ほか）（1回・183人）を実施した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・特別展期間中の講座を「記念講演会」として9回実施した。
・土曜講座は大正時代から連綿と続く歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トークは子どもを対象として研究員との対話形式で実施した。
・その他、本実績には含めないが、キャンパスメンバーズ向け講演会を実施した。（処理番号1313B参照）
・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来　ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-」、土曜講座（2年2月29日、3月7日・14日・21日）は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により中止となった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	28回	26回	B		39	45	32	37
講演会等の参加者数	3,285人	-	-		4,845	5,132	4,014	4,357

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、年度計画にない特集展示関連の子ども向けギャラリートークを実施することができた。夏期講座は元年度も定員以上の申し込みがあり、人気の講座となっている。11年目を迎えた「社会科教員のための向上講座」はリピーターも多く、元年度は特別企画「京博寄託の名宝」の見学・講座に例年より多くの参加者が集まった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講座を継続して行うことにより、来館者に活動が定着し、リピーターも多くなっている。さらに近年は、SNSでの情報発信、キャンパスメンバーズ制度、公式キャラクター・トラりんの活動の成果により、講座の参加者の年齢層が徐々に若くなっており、幅広い層に学習機会を提供することができている。今後も講座の実施・広報活動の充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B2

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。
・京博ナビゲーターによるミニワークショップ等、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内　４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
イ
・「さわって発見！ミュージアム・カート」（113日・概算45,477人参加）を実施した。
・特別展関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日・3,896人、解説プリント11,200部・4言語）、「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37回・5,662人、解説プリント10,600部・4言語）を実施した。
・「博物館Dictionary」（6回・12,000部）を発行した。
・「平成知新館こどもガイド第2版」（1回・5,000部）を発行した。
・特集展示「赤ってじつはどんな色？」（37日・38,963人）を実施した。関連ワークシート（1回・18,000部・4言語）の発行、ミュージアム・カートへの新規教材の追加、研究員によるギャラリートーク（2回・54人）を実施した。

「赤ってじつはどんな色？」
ギャラリートークの様子

ウ
・「文化財に親しむ授業」（7回・683人）、「文化財に親しむ授業スペシャル！」（4回・84人）を実施、リーフレット（3,000部・4言語）を刊行した。
・「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」（1回・18人）、「社会科教員のための向上講座」（1回・50人）を実施した。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（7回・328人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・134人）に協力した。
・「ミュージアム・キッズ！全国フェアinあわじ」（こども☆ひかりプロジェクト主催）（2回・363人）に参加した。

【補足事項】
・「文化財に親しむ授業スペシャル！」は、ICOM京都大会2019を記念して当館で開催された「KYOTO博物館子どもフォーラム」（KYOTO博物館子どもフォーラム実行委員会主催）のプログラムの一つとして実施。当日受付の小中学生を対象として、俵屋宗達と尾形光琳が描いたふたつの「風神雷神図屏風」高精細複製を用いて授業を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）は、 ICOM京都大会2019を記念し、特別企画開催中の休館日に京都市立中学校の美術部生徒を招いて実施した。生徒は鑑賞後に新聞記事を作成し、記事はポスターとして「第35回中学校総合文化祭」で展示された。
・新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により、2年2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	429回	－	－		268	553	467	482
体験型プログラム等参加者数	94,743人	－	－		16,200	21,333	282,014	47,198
スクールプログラム実施回数	7回	－	－		10	7	9	15
スクールプログラム参加者数	328人	－	－	経年変化	378	344	93	120
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	7回	－	－		7	7	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	683人	－	－		658	931	626	537
教員を対象とした研修実施回数	2回	－	－		12	3	3	3
教員を対象とした研修参加者数	68人	－	－		1,080	106	92	84
印刷物	35,000部	－	－		70,000	41,300	116,000	53,500

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】
年度計画にはない、入門的な特集展示「赤ってじつはどんな色？」を実施した。関連ギャラリートークだけでなく30年度の活動を踏まえ、4言語のワークシートを京博ナビゲーターの活動と連携させることで、さらなる展示理解・参加者の満足度の向上を促した。さらに元年度はICOM京都大会に関連した2つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験in京都国立博物館）を新規に実施し、多くの子ども達に文化財に親しむ機会を提供できた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】
「文化財に親しむ授業」は実施10年、「京博ナビゲーター」は実施6年を迎え、ノウハウが蓄積され質が向上している。入門的な特集展示の実施、多言語化の推進に加え、ICOM関連のイベント開催など、柔軟な姿勢で様々な教育プログラムを実施することができた。
課題としては、複製文化財の貸出希望が増加し従来の対応が難しくなってきているため、文化財活用センターとの分担などの連携を検討する必要がある。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。
注）一部のプログラムでは当該期間の入館者数で参加者をカウントしているため、それについては年度実績の合計値には含めない。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア　元年度は講演会等を25回実施した。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に11回実施。計1,037人の参加があり、アンケート結果で平均満足度92%を得た。
・公開講座は3つの特別展及び4つの特別陳列の会期中に13回実施。計1,838人の参加があり、平均満足度92%を得た。正倉院学術シンポジウム2019「正倉院宝物と新羅」を11月3日に実施。214人の参加があり、平均満足度92%を得た。
・夏季講座は「仏教美術にみる動物のすがた」と題し、奈良県文化会館を会場に8月21日～23日の3日間実施。講師は8人、386人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、2月8日東大寺長老の講話及び東大寺二月堂にて現地解説会を行い48人の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を2年1月9日に3回実施し、計148人の参加があった。
・特別展「藤田美術館展」では、関連イベントとして5月5日に親子ワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」、5月17日に「抹茶体験」、5月26日に「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」を実施し、それぞれ31人、42人、27人の参加があった。
・「御即位記念 第71回正倉院展」では、10月27日に「親子鑑賞会」を実施し、135人の参加があった。

【補足事項】

正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」会場風景

抹茶体験

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	25 回	28回	C		28	26	26	27
講演会等の参加者数	3,261人	－	－		3,974	3,518	3,437	3,569

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
夏季講座の会場変更による定員減少、新型コロナウィルス感染症対策に伴う臨時休館の影響もあり講演会等の実施回数・参加者数が目標値を若干下まわっているが、夏季講座・正倉院学術シンポジウムのインターネット予約システムが軌道に乗り、大きなトラブルも無く各種の講座及び講演会を実施することができた。さらにアンケートにみる満足度も高かったことから左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
特別展等に関連した公開講座、夏季講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップ・親子講座を開催し、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また奈良市教育委員会との共催で親子講座を実施するなど、他機関との連携協力を順調に進めることができたことから左記の評定とした。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携して ESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
イ
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信し、定期的に情報提供を行った。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付し、展覧会情報等を提供した。
・世界遺産学習を、奈良市内の公立小学校５年生（24 校 1,332 人）に対して実施した。
・中学校の職場体験で１校３人(2 年生)を受け入れた。
ウ
・奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について親子で学ぶＥＳＤプログラム「親子で学ぼう奈良の仏像」を7月24日・25日に実施した。
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関連した事業として、親子による絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を奈良教育大学との連携事業として8月17日に実施した。
エ　地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品の画像を公開し、当館の収蔵品について紹介した。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを引き続き設置し、文化財に関する情報を公開した。

【補足事項】

奈良市教育委員会との連携事業
「親子で学ぼう奈良の仏像」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	33回	－	－		23	21	26	28
体験型プログラム等参加者数	363人	－	－		380	384	399	436
スクールプログラム実施回数	10回	－	－	経	8	24	20	13
スクールプログラム参加者数	833人	－	－	年	390	1,701	1,001	747
職場体験実施回数	1回	－	－	変	4	3	3	1
職場体験参加者数	3人	－	－	化	9	7	6	3
世界遺産学習実施学校数	24校	－	－		37	25	32	26
世界遺産学習参加者数	1,332人	－	－		2,440	1,542	2,022	1,791
音声ガイド	1,217台	－	－		816	770	1,010	1,221

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、奈良市教育委員会との連携事業であるＥＳＤプログラムや展覧会に関連したワークショップ等を実施した。特に元年度の夏は、親子での鑑賞を意識したわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」が開催され、関連事業の絵本づくりワークショップと合わせて、子供が楽しく美術に親しむ場を提供することができた。また、世界遺産学習を実施することで、地域の文化遺産や仏教美術等についての理解促進に貢献することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
展覧会や奈良の文化財に関連した講演会、学校団体へのプログラム、各種ワークショップ等を実施し、様々な内容の学習プログラムを提供することができた。また、奈良市教育委員会や奈良教育大学と連携した教育プログラムも継続的に実施できており、中期計画は順調に進んでいる。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）　※エ、オは後述
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
・夜間開館時の教育普及活動を実施する。
・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　白井克也 課長　山野孝

【実績・成果】
（4館共通）
ア　講演会を69回開催した。
（九州国立博物館）
ア　特別展記念講演会を6回開催した。
イ　シンポジウムを3回開催した。
ウ　展示への理解を深めることを目的として、研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を日中と夜間に週変わりで行った。
「夜のミュージアムトーク」は、ハンズオンの資料等を用い、様々な年齢層に親しみやすい内容で行った。
（実施回数：昼25回、夜22回　参加人数：昼815人、夜678人）

女子考古部での茜染め体験

カ・夜間開館イベントとして、毎月第1土曜日の18時より「夜のバックヤードツアー」を実施した。
博物館の重要な文化財を「守る」・「運ぶ」・「展示する」機能を伝えるため、クイズ等を取り入れながら探検形式で行った。（実施回数：11回、参加人数：613人）
・夜間開館時に展示作品をスケッチする「スケッチしナイト☆」を2回実施した。
研究員による解説行い、個人での参加の他に地元の絵画教室の団体が参加した。
（実施回数：2回 参加人数：合計35人）
・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施した。（活動回数：14回）
キ　「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」展、「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」展、「三国志」展において教育普及プログラムを実施した。
「室町将軍」展、「三国志」展では、視覚障がい者と聴覚障がい者に対応したプログラムも実施した。
ク　筑紫野市歴史博物館、アクロス福岡、貴賓館（旧福岡県公会堂）等に講師を派遣した。

【補足事項】
カ　元年度で5年目となるきゅーはく女子考古部は、毎月1回考古学を楽しむ活動を実施。5月から8月までは当館が企画した活動、9月から3月までは部員による自主企画を行った。自主企画は、古代染め、古代食作り、古代のムラ作りなどを行った。3月には活動発表として「古代の宴へようこそ！」を実施し、一般にも広く考古学の楽しさを伝えるイベントを実施した。また、活動記録をまとめた冊子「女子的考古学のススメを製作した。さらに、他自治体とのコラボ企画として「ひろかわ古墳まつり」（福岡県八女郡広川町）のための紙芝居作りを実施し、祭り当日に披露したほか、ファッションショーも行った。1期～5期の部員交流の企画として、大野城山城ツアー南側編（5月11日）、北側編（11月16日）を実施した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
講演会等の開催回数	69回	90回	D		87	77	84	80
講演会等の参加者数	4,862人	－	－		6,212	5,369	6,299	4,491

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講演会、ミュージアムトーク等、教育普及活動を継続して実施できた。新たな取組みとして、文化交流展（平常展）・特別展の双方において、障がい者に対応したプログラムを開発・実施し、教育普及の対象を広げることができた。コロナウイルス感染拡大防止対策のため、予定していた講演会等が中止になったこともあり、開催回数のみを見れば目標を下回っているが、対象者を広げるためのプログラム開発は将来につながるものといえる。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に加え、新たに障がい者団体と連携協力を行い、障がい者の方へ学習機会を提供できた。2年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実に努めたい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　山野孝 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者（拓本）体験」「なりきり考古学者（実測図作成）体験」「馬頭琴コンサート及びワークショップ」「ガムランワークショップ」など各種ワークショップを館内で実施した。また「きゅーはくきゃらばん」の名称でアウトリーチ活動を継続的・積極的に展開し、子ども達を中心に幅広い層に向けた体験活動の機会を提供した。

なりきり学芸員体験

馬頭琴ワークショップ

・体験型展示室「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化を展示紹介するとともに、日本の伝統文化を知ってもらうコンテンツも複数準備し、体験活動を通して、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。

【補足事業】
・アウトリーチ活動として「きゅーはくきゃらばん」を26回実施した。当館所有の体験型コンテンツを中心に、新規に開発したプログラムも提供した。
国立淡路青少年自然の家、横浜高島屋や兵庫県立考古博物館、玄海少年自然の家などでワークショップを実施した。そのうち、11回は、元年度に寄贈された移動博物館車「きゅーはく号」により熊本県立装飾古墳館、長崎歴史文化博物館、朝倉市民センターなどで楽器体験等を実施した。

「きゅーはく号」によるワークショップ

あじっぱ夏祭り

・7月27日・28日に実施した公開ワークショップ『行こうよ！あじっぱ夏祭り』では、940人が参加。「アジアの占い」「タングラムで遊ぼう」「世界のコマをまわそう」「組みひもでストラップ作り」の4つのワークショップを提供し、大変好評であった。
・あじっぱ入口横ディスプレイでは2回の特集展示を行った（「インドネシアの伝統芸能」「刺繍の集い」）
・あじっぱ内では、16回の展示替を実施した。（「世界の美しい入れものたち」「お年玉切手の郷土人形」「更紗の世界」「ウズベキスタン～シタールの響き」「はらのむしの仲間たち」など）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
体験型プログラム等実施回数※	1,933回	－	－		639	2,143	2,041	1,873
体験型プログラム等参加者数	4,047人	－	－		8,860	7,796	8,651	4,914

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度から導入された博物館車「きゅーはく号」を活用したアウトリーチ活動に積極的に取り組んだ。博物館車のメリットを活かしたワークショップの在り方をを模索し、体験活動を質・量ともに充実させることができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 「こども☆ひかりプロジェクト」と連携して、複数の合同ワークショップを実施した。11月に国立淡路青少年交流の家で実施した「ミュージアムキッズ！全国フェア」では、京都国立博物館・仙台市科学館・国立民族学博物館・福岡市美術館など全国から36のミュージアムが参加し、子ども達に科学系・歴史系・美術系・生物系等多種多様なプログラムを提供した。また館長連絡協議会主導で、平成29年九州北部豪雨災害の被災地朝倉市において、福岡市博物館・福岡県立美術館・久留米市美術館・甘木歴史資料館と合同ワークショップを開催した。2年度も他館との連携協力を深めていく予定である。

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
オ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車の導入により、きゅーはくきゃらばん(移動博物館事業)の活動の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
オ
・職場体験（中学生等）を17校・87人（のべ29日間）受け入れ、学芸員･接客体験、職業インタビューの活動等を行った。
・「先生のための博物館講座」を行い、学校向け貸出キット「きゅうぱっく」の活用法の紹介や学校向けプログラムの体験等を行った。
※8月2日実施　参加者13人(うち小学校教諭10人､特別支援学校教諭3人)

歴史学フォーラムの様子

職場体験の様子

・福岡県教育庁教育振興部高校教育課と連携し12月18日～20日に「高校生インターンシップ」を実施し、5校6人の高校生を受け入れ、博物館ガイダンスやバックヤードツアー、館内接客体験やなりきり学芸員体験、体験型展示室プログラム企画立案演習などを行った。
・福島県、群馬県、岐阜県、京都府、奈良県、長崎県などから7校27人の先生・生徒を招き、歴史学研究の成果を対外的に発表する場として「全国高等学校歴史学フォーラム2019」を開催した。今回は、パネルセッション後に、参加生徒を4グループに分けたディスカッションを行い、参加生徒の相互交流を深めた。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」は、56件・93パックの貸出をおこない、7,012人児童生徒が体験した。
・学校教育活動支援事業は、40校・2,530人の先生・児童生徒に対して、博物館ガイダンスやバックヤードツアー、展示室解説ツアーなどを実施した。

【補足事項】
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」については、破損して使えなくなっていた資料を補修・補充するとともに、新しく「土偶～祈りのかたち」「実践！勘合貿易」の2パックを制作し、2年度以降新たに貸出を開始する予定である。また視覚障がい者向けのコンテンツとして館蔵品の鬼瓦（重要文化財）の石膏レプリカを制作し、体験活動の充実を図った。
・「全国高等学校歴史学フォーラム2019」では、参加生徒を4つのグループに分け、当館職員がファシリテーターとして加わりディスカッションを実施した。相互交流が深まると共に様々な意見が飛び出し、引率教員からも大変好評であった。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
学校教育活動支援事業実施回数	40校	－	－	経年変化	13	18	27	47
学校教育活動支援事業参加者数	2,530人	－	－		1,251	625	1,612	3,452
出前講座実施回数	5回	－	－		6	6	6	5
出前講座参加者数	214人	－	－		370	179	104	151
職場体験等の実施回数	17校	－	－		32	17	20	18
職場体験等の参加者数	87人	－	－		117	87	92	93
教員を対象とした研修実施回数	1回	－	－		12	4	4	3
教員を対象とした研修参加者数	13人	－	－		167	73	25	25
「きゅうぱっく」貸出件数	56件	－	－		47	47	33	40
印刷物	120,000部	－	－		175,000	145,000	－	20,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
各学校連携事業とも順調に実施し、年度計画を達成した。元年度新たに導入した移動博物館車を使った活動については、人員の確保や天候不順時の対応などの課題があったが、実施回数を重ねることで次第にノウハウが身に付き、順調に運用できるようになった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度に寄贈された移動博物館車『きゅーはく号』は、ミュージアムや公共施設を中心に訪問した。限られた人員で、館内事業と館外事業の両方を、効率よく運用していくことが今後の課題である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を継続して実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　ボランティア活動支援のため、研修会、解説会、マニュアル作成などを引き続き行った。特に、元年度からはボランティアが各自でマニュアルを活用しやすいように、オリジナルのファイルを作成して配布している。
ウ　自主企画グループの質の高い運営のために、2月に1度のリーダー会議、各ガイドグループの原稿チェックやグループ運営のためのマニュアル作成、解説会などを引き続き行っている
オ　ボランティアの企画立案によるプログラムのために、各グループへの助言を行い、イベント時における新たなガイドも推奨している。また、ボランティアデーでは新規ボランティア希望者への「活動紹介ツアー」に加え、「質問コーナー」などを開催した。

キッズデーの東洋館ガイドツアー

【補足事項】受け入れ人数は、ボランティア151人と東京藝術大学大学院インターンシップ8人の合計。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	159人	－	－		173	169	151	149

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 イベント時のボランティア支援により、「博物館でアジアの旅」において、アジアとのかかわりに焦点をあてた樹木ツアー、本館ハイライトツアー、「キッズデー」における子ども対象の東洋館ツアー、法隆寺宝物館ガイドなど、新たなガイドを実施したことで、参加対象や内容の充実につながった。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ボランティア精神を持ち、ボランティア活動を理解しているボランティアを採用、育成するために、採用条件や研修、マニュアルの見直しなどを行った。その結果、ボランティアにしかできない来館者の目線に立った来館者サービスを生み出すことができ、ボランティア個々のやりがいや生涯学習にもつながった。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会（4日）を実施した。
・京博ナビゲーターに対して普段の活動の意欲向上と相互に交流を深めることを目的とした感謝会（1回）を実施した。
・京博ナビゲーター（201人）が下記の活動を行った。
①平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（113日）
②特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ「一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～」（51日）
③特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ「顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～」（37日）
④教育普及活動の補助（夏期講座）
イ
・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（22人）
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。（20回）
・文化財ソムリエ（21人）が以下の活動を行った
①京都市内の小中学校への訪問授業(7回)
②記者体験in京都国立博物館（1回）
③KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」（1回）
④「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」での事例発表（1回）
エ
・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。（11人）

文化財に親しむ授業スペシャル！

【補足事項】
ア　京博ナビゲーターは平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、ハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。また特別展期間中はワークショップを毎日実施し、計9,558人の参加があった。
なお、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により、2年2月27日から3月22日の京博ナビゲーターの活動は中止となった。
ウ　文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（21名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言なども精力的に行った。
また、他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業（ミュージアム・キッズ！全国フェアinあわじ）において、大学生ボランティアを受け入れた（2人）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	255人	－	－		214	215	270	264

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき教育普及補助活動の充実を図ることができた。ボランティアは30年度と同程度の人数を受け入れた。
元年度は文化財ソムリエが例年の活動にはなかった ICOM 関連の 2 つのイベント（文化財に親しむ授業スペシャル！、記者体験 in 京都国立博物館）で新しい作品を題材にした鑑賞会を行った。また京博ナビゲーターは、特集展示の 4 言語ワークシートと連動した活動を新規に行うなど、活動内容の面で充実を図ることができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティア活動は、教育活動の充実に寄与するだけでなく、ボランティア自身の生涯学習にも繋がっている。以前から継続している活動だけでなく、その時々に求められる活動を、柔軟に実施することができた。今後もこれらの活動を継続して進めていくとともに、質の向上を図りたい。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1312C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度３期目の２年目として、ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の円滑化を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会等により、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	ボランティア室長　谷口耕生

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度3期の2年目にあたり、世界遺産グループ（47人）、解説グループ（56人）、サポートグループ（47人）の3つがそれぞれ充実した活動を行った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生（24校1,332人）のほか、学校プログラムとして県内外の小学生～高校生の生徒を受け入れた（10校833人）。奈良市教育委員会と共催で「親子で学ぼう 奈良の仏像」を夏休みに実施した（2日間）。この事業では、ボランティアが半年間の打合せと練習を行った。また、名品展（平常展）では、要所にデスクを設け、年間を通じて、質問の対応等を行った（合計1,796回）。名品展以外にも、7月13日～9月8日に、当館東新館にて開催された、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」においても、展示室内に設置されたカウンターにて、ボランティアが来場者からの作品に関する質問等への対応をした（世界遺産グループ295回、解説グループ31回、計326回）。また、展示室内のデスクやカウンターでの活動に加え、なら仏像館においてツアー解説を開館日の毎日基本2回実施した（494回、2,722人）。そのほか、講座やイベント等の補助業務を担当した（65回）。さらに上記の活動に加え、3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した（20日、89回）。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1か月間の練習立会と指導をした。
イ　ボランティアに対して、名品展研修を行う（10回）とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した（4回）。
ウ　ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した（31回）。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した（14回）。
エ　ボランティアによる当館敷地内の茶室庭園の案内ガイドを実施した（計5回）。また、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。

【補足事項】
ア
・奈良市教育委員会との共催事業「親子で学ぼう 奈良の仏像」は、2日間で66組の親子が参加（144人）。
・なら仏像館ツアー解説は、開館日毎日11時と14時に実施した（494回）。
・特別陳列「お水取り」のツアー解説を2年3月に予定していたが、臨時休館により中止となった。
・第71回正倉院展の講堂ボランティア解説は20日間89回で、聴講者数は13,315人であった。ボランティアの活動人数は79人であった。
イ　ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、ボランティアミーティングを定期的に実施した（8回）。
エ
・ボランティア通信誌「ブリッジ」を3回発行した。
・庭園案内ガイドを4月に2回、5月に1回、11月に2回それぞれ実施した。
庭園案内ガイド実施時の庭園入場者数について、4月は1,086人、5月は462人、11月は2,333人であった。
・ボランティア親睦会を2年2月17日に実施した。

庭園案内ガイドの実施風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	150人	－	－		157	150	143	159

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、年度当初の計画のもと、研究員によるボランティア対象の研修を計14回、ボランティア同士での勉強会を計31回実施し、ボランティアによる解説の資質向上に努めた。また、それらの研修や勉強会による学習を生かし、展示室内におけるデスク活動を計2,122回、なら仏像館においてツアー解説を計494回、そして庭園案内ガイドを計5回実施した。さらには学校団体を計34校受け入れるなど、年度計画の事業を予定通り進める事ができていると考えられる。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティアによる作品や庭園等の案内等の教育事業を継続的に実施し、来館者への教育の充実を図った。さらに元年度は、名品展に加え、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内においても、ボランティアが計326回の活動を行うなど、教育普及をより強化できたものと考えられる。また今後も従来の事業を継続させるとともに、新しい事業を計画・実施することにより、教育・普及活動を一層充実させるよう努める。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会、フィールド部会、手話部会の活動の充実を図る。そのための基礎研修等を行い、各部会の学習機会の充実を図る。また、活動内容に応じた部会の整理統合も検討する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
1)第5期ボランティア（3年目）を中心に、来館者サービスのための研修を充実させたことで、学校団体向けの博物館案内プログラムを開発することができた。
2)研修での講師の招へいや、他館のボランティアとの積極的な交流を通して、ボランティアとしての資質向上を図った。
3)新たなボランティア主催のイベントやワークショップの企画・実施を手掛ける“グループ活動”の充実を図った。

【補足事項】
1)5期ボランティア（3年目）と、4期ボランティア（6年目）の登録数はほぼ半々であるが、活動日等、バランスよく配置したことで来館者対応に余裕が生まれた。
また元年度は新たに“スクールプログラム班”を創設し、来館する学校団体に対して博物館における役割や展示の見所などを紹介した。
・各期ボランティア数
第4期ボランティア（26年4月より活動）数　127人（任期制ではない手話部会含む）
第5期ボランティア（29年4月より活動）数　147人（同上）
・通常の活動においては、1日平均30～50人、1か月平均のべ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM（総合的生物管理）活動や、土日を中心とした手話通訳による案内。
〔ボランティア対応数〕（事前申込・当日受付の総数）
展示解説：6,192人　館内案内（含手話）：7,193人　バックヤード：2,293人
2)ボランティアの資質向上を目的に、館内の研究員や外部講師を招へいしての全体研修や、ボランティア自身の意向に沿った自主研修、また、館外での研修を実施した。
〔主な研修〕
展示案内研修、古代韓国歴史講座、多言語館内案内研修、IPM関連講座、救命救急講習等
〔主な館外研修先〕
九州陶磁器文化館、大刀洗平和祈念館、熊本博物館、名護屋城博物館、福岡市美術館、UBEビエンナーレ、北九州市立いのちのたび博物館等

学校団体を案内する様子

他館ボランティアとの交流会の様子

3)ボランティア主催イベントにおいては、他館への視察で得たヒントをもとに、さまざまな分野でのワークショップを開発した。（公財）九州国立博物館振興財団が支援するグループ活動（ボランティア部会の枠を超えた研修グループ）に「ワークショップデザイングループ」が新たに創設され、新たなコンテンツが生み出された。アウトリーチ活動（「きゅーはくきゃらばん」）と併せ、多くの児童生徒たちに好評を博している。
〔実施したイベント等〕
「わくわくワークショップ」（5月3日、8月11日、11月24日）、「古代文字ワークショップ」（8月24日、12月8日）「折り紙イベント」（5月6日、8月4日、10月20日）、「どんぐりクエスト」（11月2日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ボランティアの受入人数	274人	－	－		352	307	313	295

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、令和ブームもあいまって1年間を通してボランティア案内の依頼（館内案内、展示解説）が多く、多くのボランティアが活動を行った。また、部会によらない横断的な組織での活動（「スクールプログラム班」、「ワークショップデザイングループ」など）を新たに立ち上げたことで、さらなる来館者サービスの充実を図ることができた。今後は施設情報や展示物に関する研修だけはなく、世代に応じた話し方や、障がい者への案内方法などを学ぶ接遇研修を取り入れていくことが必要と考えている。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度は、他館のボランティアとの交流を積極的に行ったことで様々な視点からのボランティア活動が展開できるようになった。特に若い世代のボランティアたちが、全国のミュージアムに当館での活動内容を発表したり、また現地で見聞したことを館に還元したりしたことで新たな来館者サービスの開発につながった。
2年度は第6期ボランティア約200人が新たに活動を始める。これまで同様、来館者サービスの充実を図るとともに、「地域・市民とともに歩む博物館」の象徴的な存在である“九博ボランティア”の活動を、より多くの施設や団体に認知いただけるよう広報していきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　加入校数 60 校（内訳　法人：3、大学：49、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、22,937 人の学生、866 人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、9,819 人の学生が利用した。
ア　制度の認知度および利用率向上を目的に、新入学生をターゲットにした広報チラシ・ポスターを作成・配布。また、SNS を利用したハッシュタグキャンペーンを実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、10 部署で 10～30 日の活動を行い、17 大学 22 名が修了した。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について取り扱った「博物館セミナー」を実施した。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について「博物館学講座」を開催した。
イ　・東京藝術大学大学院インターシップを 8 名受け入れ、合計 37 回ギャラリートークを実施した。
　　・大学、専門学校からの団体見学申込に対し、自由見学前にレクチャーを提供し、18 校 374 人に対応した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア
・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした「博物館セミナー」（8 月 28 日、参加数 166 人）
・キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした「博物館学講座」（8 月 26 日～30 日、参加数 38 人）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数	60校	－	－		48	52	53	56
インターンシップ参加者数	22人	－	－		23	22	26	22
見学対応実施回数	18回	－	－		12	14	22	13
見学対応参加者数	374人	－	－		275	480	571	482
その他事業実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
その他事業参加者数	166人	－	－		37	36	27	88

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ(60校)及びインターンシップ(22名)による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学等との連携事業に順調に取り組んでいる。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続していく予定である。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 上席研究員　宮川禎一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ制度を継続し、大学等との連携を図り、加入校増加に向けた営業を行った。
・会員を主対象とした講演会を、春・秋の特別展にあわせて実施した。
・公式キャラクター「トラりん」が加入校を7校回り、制度の特典や特別展を広報した。
・教育的観点の重視のため、より多くの教職員を対象とできるように運用方法を整理した。
・当館を会場として加入校が中心となり、音楽コンサートや映画上映会を開催した。
・2年度より新たに国立大学法人滋賀大学が加入することとなった。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として、宮川禎一（考古）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）の 4 人が大学院生（修士・博士課程在籍者）に対して、博物館内で文化財をテーマに講義・ゼミを行った。受講学生は 6 人（のべ 16 人）である。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月26日　講師：連携協力室長　淺湫毅）（1回・83人）
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」キャンパスメンバーズ向け講演会（11月1日　講師：研究員　井並林太郎）（1回・120人）

キャンパスメンバーズ向け講演会

（京都国立博物館）
・京都大学留学生のための文化財講座を 2 年 1 月 15 日に開催した。会議室で座学、展示場で作品解説付きで見学した。（2 年 1 月 15 日・17 人　講師：主任研究員　古谷毅）
ア
・学芸部研究職員は客員教授2人（宮川・山川）、客員准教授2人（淺湫・大原）の体制で研究指導を行った。また、修士・博士課程1人については、論文作成の指導を適宜行った。

京大人環大学院生への論文指導

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数※	32校	－	－		29	27	29	32
インターンシップ参加者数	2人	－	－	経	2	3	2	1
連携講座参加者数	6人	－	－	年	6	6	6	6
見学対応実施回数	2回	－	－	変	2	2	3	1
見学対応参加者数	42人	－	－	化	41	35	40	25
その他事業実施回数	23回	－	－		1	22	22	23
その他事業参加者数	349人	－	－		22	52	27	349

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるよう広報活動・営業活動や運用方法の見直しを行った。 京都大学連携講座による人間環境学部の大学院生に対しては、文化財の実物教育を実施し、博物館ならではの研究指導を行った。 京都大学の短期留学生に対して文化財学習の講座を開催し、日本文化の理解を促進することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズの加入校数は維持しており、安定して大学等との連携ができている。今後も継続して制度の広報を行いつつ、適宜見直しを図り、学生・教職員の需要に見合う制度を目指す。 京都大学連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していくこととする。

※奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、元年度までで入会校数は27校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　立命館大学が募集した当館でのインターンシップは、希望者がおらず実施することができなかった。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（日本アジア文化情報学講座）に学芸部研究員 1 人を客員教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。受講生は前期 1 人、後期 1 人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に、学芸部の研究員 2 人を客員教授、客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講生は、修士課程、博士課程の大学院生 9 人であった。
イ　京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月1日)

【補足事項】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」を8月17日に実施し37人の参加があった。

親子向けワークショップ
「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数※	27校	－	－		27	25	27	28
インターンシップ参加者数	0人	－	－		3	3	2	0
連携講座参加者数	11人	－	－		10	10	12	8

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、歴史・伝統文化に対する関心を高めるため、大学にて当館研究員による連携講座や展覧会に関する出前授業を実施した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズである大学との連携事業は、大学の教育プログラムとして毎年実績を重ねることにより、歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができた。また、キャンパスメンバーズ制度については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実を図りたい。
中期計画に対しては順調に成果を上げており、今後も継続して各種事業を実施し人材育成に寄与していく。

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、元年度も募集・実施した。
　各教育機関（大学・高等学校）が継続して加入した。（元年度加入校内訳：大学13校、短期大学2学、専門学校1校、高等学校6校、高等専修学校1校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。
　研修期間は8月19日～23日の5日間。広島市立大学3人、九州産業大学2人、佐賀大学3人の計3大学8人が参加した。
　屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を受け入れ、実習を実施した。
　実施期間：8月21日～9月2日（10日間）
　内容：博物館の各機能に関する講義、実習
　博物館実習生を11大学から15人受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学9人）
イ　放送大学の面接授業を実施した。
　（「博物館を学ぶ」2日間、38人受講　講師8人）

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用工作キット製作・展示プラン作成を行った。また、元年度は現在当館で取り組んでいる障がい者対応の講義と実習を新たに取り入れた。

博物館実習講義・実習
「ユニバーサル・ミュージアムと社会包摂」
目を閉じての触察体験

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
キャンパスメンバーズ加入大学数	23校	－	－		25	25	25	23
インターンシップ参加者数	8人	－	－		7	4	3	8
見学対応実施回数	2回	－	－		7	6	3	3
見学対応参加者数	44人	－	－		450	243	140	140
その他事業実施回数	13回	－	－		12	11	8	14
その他事業参加者数	250人	－	－		86	136	105	264

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大学等と連携した事業を元年度も行った。 博物館実習では、これからの学芸員に求められる資質に即した講義・実習を、館内各部門と連携・協力しながらを行うことができた。また、放送大学の面接授業についても、大学担当者や講師と内容を検討し、充実した講義・体験等を行うことができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップ、博物館実習等を行い、中期計画のとおり、人材育成に寄与できた。引き続き、大学との連携事業を推進していきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（4館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
（4館共通）
東京芸術大学大学院からインターン生を10日間受け入れて、赤外線撮影調査補助、カルテ点検調書電子化、貸与返却時点検作業補助など保存修復課の日常業務に従事してもらった。
また NPO/JCP との共同開催による元年度「文化財の保存修復を目指す人のための実践コース　Ⅲ.」の「陶磁器・漆」基礎講座」3 日間（11 月 15 日～17 日）に、当課研究員野中昭美が講師として登壇した。受講内容は立体作品分野を取り扱う専門の修復技術者、保存科学者、展示をマネージメントする立場の 6 名で、修理の考え方や技術の相違など意見を交わすものである。
その他、当課が管理する保存修復施設への視察・見学として、国内外の文化財保存学の専攻課程を持つ大学・大学院や博物館関連施設から延べ 92 名を受け入れた。

【補足事項】

図1.　インターン活動（赤外線撮影補助）

図2. 文化財の保存修復を目指す人のための実践コースⅢの様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催日数	1回	－	－	年	1	1	3	3
参加者数	14人	－	－	変	18	23	39	29
インターン受入人数	1人	－	－	化	4	4	2	2
大学院生のための研修会参加人数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度のインターンは1名であったが、保存修復課の日常業務を経験してもらい、既存の社会人教育、大学教育を補完できる教育活動が行えた。また例年通りNPO/JCPとの共催になる「文化財の保存修復を目指す人のための実践コースⅢ」を実施し、博物館の現場から実践に即した講義が行えた。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修理事業者を対象とした人材育成は、対象とする人材が毎年変動するので固定して実施するのが困難な面があるが、所期の目的は達していると考えられる。しかし、日常業務や現場作業との日程調整が難しく、受け入れ日数、人数の上限を想定しつつ、質と量を充実していくことが課題である。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（４館共通）
・文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回7回・会議7回）
・当館開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計2回・112人）
　特別展「国宝　一遍聖絵と時宗の名宝」（57人）4月22日
　特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（55人）10月21日
・文化財修復に係わる大学院生（2人）のインターンシップ実習（8月19日～8月30日、9月9日～9月20日）を実施し、11月16日に口頭による報告会を開催し（出席者19人）、報告書を作成した。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を9月13日に実施した。（参加者15人、うち2人はインターン実習生）
・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。（計28回・161人）
　香港中文大學文物館（32人）4月11日
　メトロポリタン美術館（3人）7月8日
　大英博物館　平山スタジオ・日本東洋絵画修復（2人）8月30日、他25回
・2年度開催予定の特別企画「文化財修理の最先端」の開催に向け、図録作成の準備等を行った。

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。
　なお、巡回に関しては今年度から協議会開催月に実施するように変更した。
・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の修理現場を体験することにより、修理技術の習得や向上に資することができた。
・文化財修復を学ぶ大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。
　なお、運営については2年度より見直しが入る予定である。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。

保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会（9 月 13 日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催回数	2回	－	－	年	2	2	2	2
参加人数	112人	－	－	変	126	96	129	113
インターン受入人数	2人	－	－	化	2	3	2	1
大学院生のための研修会参加人数	15人	－	－		22	13	9	11

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　30年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。
　インターン事業は14回を迎えたが、2年度からより充実したものにすべく内容の変更を検討している。
　2年度に開催予定である特別企画「文化財修理の最先端」の準備も修理技術者の協力を得て、図録作成や映像作成の準備を進めることができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。
　2年度は文化財保存修理所開所40周年を記念し、文化財修理に焦点を当てた特別企画「文化財修理の最先端」を開催予定であり、引き続き修理技術者と協力しながら展示の成功に結び付けたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会を2年1月31日に開催した。
・海外の修理技術者等の視察を2回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
11月13日：米国フリア美術館職員による視察（2人）
12月12日：韓国国立中央博物館職員による視察（3人）

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
2年1月31日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。
美術院代表者からの修理に関する報告（「修理者研修会　美術院　事例報告」）と討議を行った。参加者は47人。

元年度研修会での工房担当者による報告

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	3回	－	－		6	4	8	7
参加者数	52人	－	－		74	51	77	62

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、元年度はアメリカ、韓国の専門家が文化財保存修理所を見学した。日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができており、計画通り事業を遂行することができた。引き続き2年度も継続して取り組む。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、保存修理所技術者研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

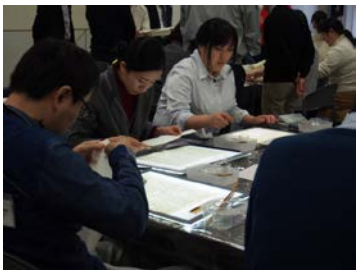
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。（計3回・38人参加）
・文化財保存、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）普及のための講座・研修を開催した。（計2回、合計202人参加）

【補足事項】
　保存修理事業者と協力した研修会
　・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
　　日程：8 月 19 日～23 日（5 日間）　参加人数：8 人
　　対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生
　・「古文書保存基礎講座」
　　日程：2 年 1 月 24 日、25 日　参加人数：24 人
　　対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者
　　主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
　　協力：国宝修理装潢師連盟


古文書保存基礎講座の様子

○ＩＰＭ普及のための研修会
　・「ＩＰＭ館内研修」
　　日程：5月15日
　　参加人数：20人
　　対象：国立文化財機構・館内関係者
　・「環境調査報告会」
　　日程：7月2日
　　参加人数：32人
　　対象：館内環境整備関係者
　・「ＩＰＭセミナー・ＩＰＭ研修」
　　ＩＰＭセミナー：10月24日、ＩＰＭ研修：10月25日、26日
　　参加人数：延べ184人
　　対象：全国の博物館、美術館等の学芸員

ＩＰＭ研修における実習の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	7回	－	－	経年変化	7	6	9	8
参加者数	260人	－	－		179	473	533	292
インターン受入人数	8人	－	－		－	－	3	8

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財修理に関するインターンの受け入れや地元自治体古文書担当者への研修、ＩＰＭ研修等の教育普及事業を計画的に実施することができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	地元の大学、地元自治体、修理技術者、ＩＰＭ従事者等と連携しながら、実習を取り入れたプログラムで実践的な研修を中期計画に沿って実施することができた。今後も少人数で実践的な研修を継続する計画である。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　29年度より新会員制度へ移行し、会員総数は23,684件となった。
イ　賛助会と友の会会員を対象とした講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会・内覧会を実施した。
ウ　バンクオブアメリカ・メリルリンチなど文化財修復に関する支援を受けている企業と協同し、文化財修復の成果や修復の現場について解説を行うなど、認知度の向上に資するイベントを実施した。
エ　特別展「東寺」「正倉院の世界」において、三菱商事株式会社と共催で障がい者向けの「特別鑑賞会」を実施した。
オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。
（東京国立博物館）
ア　29年度から新たな会員制度として導入した「国立博物館メンバーズパス（4館共通）」及び当館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」の加入者増加に向けた取り組みを促進した。
イ　上野文化の杜新構想に基づき、上野全体の共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行や講演会、コンサートを実施した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　賛助会会員件数686件の内訳は個人611人（プレミアム4人、特別15人、維持592人）、団体75団体（特別21団体、維持54団体）である。
ウ　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を検討する。
（東京国立博物館）
イ　上野文化の杜が主催する「松方コレクションにみる西洋美術と浮世絵版画」にて国立西洋美術館との2館合同連携事業としてトークセッションを開催した。

元年度賛助会感謝会の様子
（事業報告会）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	23,684	－	－	経年変化	23,451	28,939	25,244	21,914
賛助会会員数	686	－	－		464	455	559	621
友の会会員数	3,145	－	－		2,041	2,337	2,967	2,939
メンバーズプレミアム(国立博物館メンバーズパスを含む)会員数※28年度までのパスポートとベーシックに相当	19,853	－	－		20,946	26,147	21,718	18,354

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
会員制度は、特別展の内容が大きく左右するため会員数は減少となったが、賛助会は、個人・団体ともに増加している。企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。上野文化の杜の事業として、国立西洋美術館との連携企画の実施、研究員の顔が見えるコンテンツへの協力など、上野地区での認知度向上を積極的に実施した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
プレミアムメンバーズパス会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに堅調に推移しており、全体としての会員数は減少しているものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。4年度の開館150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、支援者の増加に努める。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少したが、案内チラシの更新・増刷等で会員数の拡大に取り組んだ。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、30年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を付与した。
ウ
・(株) 三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会をホテルコンシェルジュ等にも開放し、広報協力を得ることができた。
・特別展共催者等が企画する特別展の団体貸切鑑賞会を受け入れた。
エ　特別展の協力企業である（株）日本香堂が提供するラジオ番組で展覧会のPRを行った。
オ　各種事業をbeyond2020へ引き続き登録した。
(京都国立博物館)
ア　支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び総会の開催に協力した。
イ
・ミュージアムパートナー制度では、パートナーより元年度も継続して支援を得られただけでなく、新たに2社の支援を得た。
・ミュージアムパートナー制度をより活性化するため認定期間や特典、協賛金額等の改定を行い、周知期間の後、2年度より適用することとした。
・文化財保護基金では企業等からの寄付金を引き続き受け入れたほか、京都の老舗喫茶店とのコラボレーション商品を新たに開発する等、支援者の拡大を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ
・タクシー会社・ホテルコンシェルジュ対象特別鑑賞会
特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」(8月21日　講師：主任研究員　呉孟晋)
(1回・95人)
特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(10月16日　講師：研究員　井並林太郎)
(1回・38人)

特別鑑賞会の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	1,594件	－	－	経年変化	7,476	5,855	2,266	1,597
清風会及びミュージアムパートナー会員数	521件	－	－		368	370	452	485
国立博物館メンバーズパス会員数	1,073件	－	－		－	－	1,814	1,112
パスポート会員数※	－	－	－		7,108	5,493	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「国立博物館メンバーズパス」については会員数が伸び悩んでいるため、周知・広報に力を入れリピーター獲得に努めたい。企業等との連携においては、タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を元年度よりホテルコンシェルジュ等にも開放することで、広報協力を得る範囲を拡大できたため、新たな来館者誘致につなげていきたい。そのほかの事業については30年度に引き続き計画どおりに遂行した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特に企業等との連携においては、支援・協力対象が拡大している。会員制度については、個々の事業についてさらに活性化できるよう、継続して事業を運営し、必要に応じて見直し等を図りたい。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（4館共通）
ア　入会案内チラシの配布等の広報を行い賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として開始された「日本博」における主催・共催型プロジェクトにわくわく美術ギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」及び特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」が採択された。また、参画プロジェクトとして特別展「国宝の殿堂 藤田美術館―曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき―」ほか5件が認証された。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員102件（特別支援会員：4団体、特別会員4団体、一般会員（団体）：18団体、一般会員（個人）：76人）
エ　地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。

【補足事項】
（4館共通）
ウ　三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PRイベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
（奈良国立博物館）
エ
・地元商店街と連携し、第71回正倉院展にてスタンプラリーを実施した。
・地元企業（プロバスケットボールチーム・バンビシャス奈良）と連携し、コラボチケットを販売した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。

三越伊勢丹とのコラボレーションギフト

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	1,459人	－	－	経	3,665	3,812	1,740	1,499
賛助会会員数	102件	－	－	年	74	73	76	93
奈良博プレミアムカード会員数	1,112人	－	－	変	－	－	1,347	1,185
国立博物館メンバーズパス会員数	245人	－	－	化	－	－	317	221
パスポート会員数※	－	－	－		3,591	3,739	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 奈良博プレミアムカードの他館他機関の入館において優待したものの、会員数の向上にはならなかった。今後は優待内容を3年前の奈良博パスポートに近い内容に変更及び入会料金の改定を実施し、離れていった会員を取り戻すよう改善したい。なお、賛助会員においては会員を新規獲得するため、優待内容を充実させ、30年度に比べて一般会員（個人）8人増となる成果をあげることができた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街やプロスポーツチーム、地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げた。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式A】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員のさらなる獲得を図る。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を継続し拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特集展示チラシ等を送付した。
ウ　古都太宰府ナイトエリア創出委員会、福岡県観光局等と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。また、企業と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。
エ　企業より、展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　元年度に実施した特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの事業認証を受けた。
　また、元年度に実施した特集展示及び特別展の一部について、日本博参画プロジェクトの認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の広報に努め、新規会員の獲得を図った。元年度の新規加入数は4団体、6人であった。

【補足事項】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
ウ
・西日本新聞社及び公益財団法人九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来連続してエントランスに展示した。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携し、子どもたちを対象にしたワークショップイベントを開催した。近隣市町の中学校美術展を開催した。
・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。
・中国便のある佐賀空港と提携し、空港内で特別展「三国志」の広報を行った。

佐賀空港との連携による特別展広報

オ　beyond2020プログラム事業認証　9件　日本博参画プロジェクト認証　3件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）2人、特別会員（個人）4人、維持会員（個人）20人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）2団体、維持会員（団体）18団体）
（※新規加入　特別会員（個人）1人、維持会員（個人）5人、維持会員（団体）4団体）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
賛助会等支援組織の会員数	4,553人	－	－	経年変化	5,777	6,016	5,193	5,332
賛助会会員数	47人	－	－		－	－	2	45
友の会会員数	91人	－	－		206	268	83	73
メンバーズプレミアムパス会員数	4,369人	－	－		－	－	5,082	5,181
国立博物館メンバーズパス会員数	46人	－	－		－	－	26	33
パスポート会員数※	－	－	－		5,571	5,748	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　各種イベントの実施や、賛助会員制度の広報・拡充等により、企業との連携及び会員制度の活性化を図り、年度計画を実行できた。
　ウェブサイトやパンフレット・チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、一定の会員数を獲得することができた。
　beyond2020プログラムや日本博参画プロジェクトの認証を受けた事業を実施し、日本文化の発信を行うことができた。今後も当館の活動への理解を深めていただけるよう広報の充実を図り、支援者の増加に努めたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　元年度も賛助会制度や各会員制度の広報など、企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る取り組みを実施し、中期計画を順調に進めている。

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東博　処理番号 1321HA

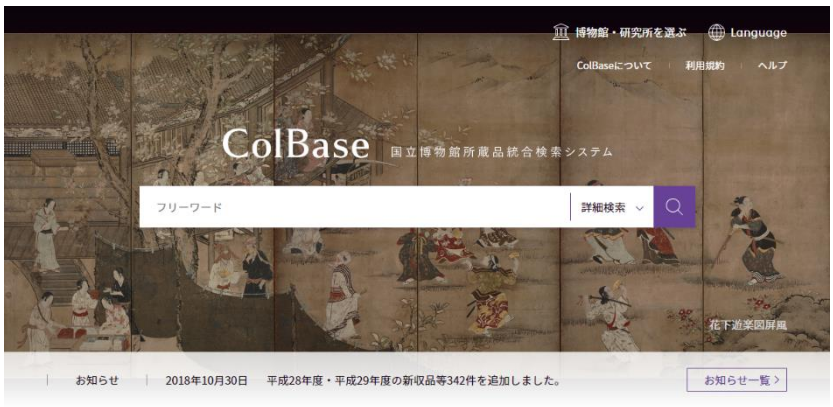
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　４館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図る。
イ　４館収蔵品の国宝・重要文化財について、５言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開し、更新に着手する。

担当部課	本部文化財活用センターデジタル資源担当 東京国立博物館博物館情報課	事業責任者	課長　今井敦

【実績・成果】
（４館共通）
・ColBase について所蔵品データの修正や画像の追加を行い（画像追加 6,349 枚）、画像の高精細化に国指定品から着手した（347 件分掲載済み）。さらに、2 年 1 月には改修を行い、対象に奈良文化財研究所を加えたほか、各館の公開データベースのデータを ColBase に定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。また、画面デザインを変更し、より見やすく機能的にするとともに、音声等、画像以外のデジタルデータを登録できるようにした。
・e 国宝の維持管理を行った。2 年 10 月のリニューアルを目指し、22 年以降の指定品のデータの追加を準備したほか、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。なお、現在公開しているフランス語データについては、機構内で翻訳やチェックを行う体制がないことから、取り下げることとした。

【補足事項】



ColBase　リニューアル後の画面

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及びe国宝を適切に維持管理し、ColBaseの改修を実施した。ColBaseについては、2年度も引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する必要がある。e国宝については、2年度に計画通りシステムの更新を行う。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他の関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財及びその他関連する資料の公開について、ウェブ上でさまざまな公開手段を設けるとともに、公開データの件数を継続的に増加させた。今後、新規データの追加を計画的に行うための方策を講じる必要がある。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の説明を付した館蔵品データベースを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」の充実を図るため、館蔵品の原板フィルムを積極的にデジタル化した。また、文化財活用センターを中心に推進しているe国宝・ColBaseに統合することで、より多くの人が閲覧可能となった。
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースに画像や解説等を追加・更新し、当館ウェブサイト上で引き続き館蔵品情報を公開した。
イ　平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ、収蔵品の画像等を継続して公開した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースに公開するデジタル画像を2,178枚増加させた。

画像登録の様子

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 e国宝・ColBaseを通じて、より広く館蔵品情報を公開した。平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、館蔵品データベースの充実を積極的に行い、広報の充実に努めた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 元年度もウェブサイト等を通じて、画像や解説を継続して公開した。館蔵品データベースについても公開データを増加させた。中期計画に基づき順調に事業を実施しており、2年度以降も継続する。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1321C

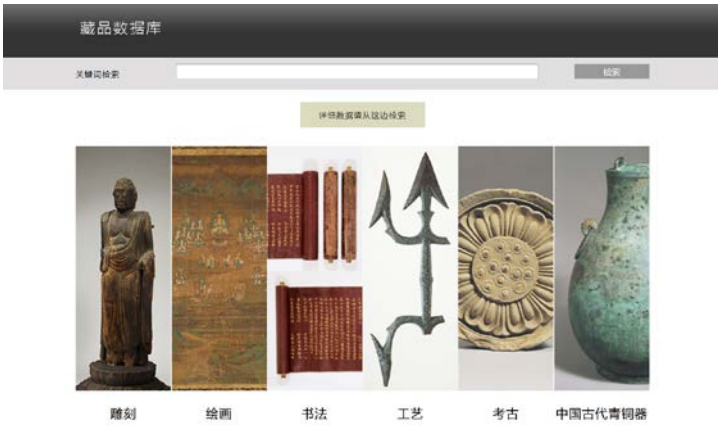
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルムのデジタル化や新規撮影を多数行い、関連データを整備して、インターネットで公開した。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供した。

【補足事項】
　収蔵品データベースの充実をはかり、画像データの登録件数増加に注力した。収蔵品データベースは、OAI-PMHリポジトリの構築によってColBaseとの自動連携を目指しており、リポジトリサイトが完成している。これにより増加させた画像データ、テキストデータが当館のデータベースだけでなく、ColBaseにも反映される予定である（現在は、ColBase側での取り込み作業のテスト中）。
　一方、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開に向けても準備を進めた。国際交流担当の翻訳担当者の協力を得て基礎情報の翻訳を行い、テストサイトの構築まで進んでいる。2年度もしくは3年度の公開を目指している。



収蔵品データベース
中国語版テストサイト

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	デジタル撮影、既存原板のデジタル化、データベースへの登録件数ともに例年に準じた成果をあげており、所期の目標を達成したといえる。中国語・韓国語版収蔵品データベースの公開に向けて、順当に作業を進めている点も評価できる。

【中期計画記載事項】
　ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みに着手し、国際化の充実を目指している。今後もより豊かな情報の発信につながるよう事業を進める予定である。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1321D

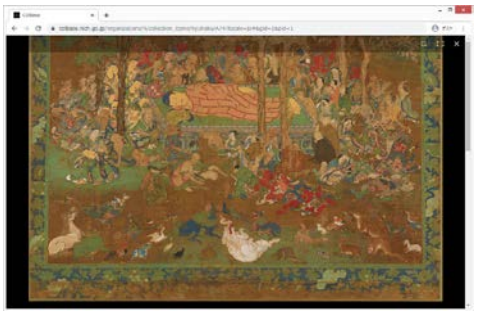
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報及び展示情報を掲載した「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形等のデータベースを継続して公開する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ア　4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ469件、新規画像794件を追加で公開した。また、公開中の画像を、すべて長辺3,000ピクセルの画像へと差し替えた。

（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、469件のデータを追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報の発信を続けた。収蔵品に関する情報の普及を一層推進するとともに利用者の利便性を向上させている。
イ
・対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。収蔵品ギャラリーやColBaseに、対馬宗家文書データベースへのリンクを設置し、アクセシビリティを向上させた。
・装飾古墳データベースは、引き続き公開運用を続けた。
・30年度に全てのデータ整理が完了した郷土人形データベースは、引き続き公開運用を続けた。


部分の拡大ができる長辺 3,000pixel 画像

宗家文書データベースへのリンク

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　元年度はウェブサイト公開用の画像の整理・加工を進め、約1,000件の画像を追加公開した。収蔵品ギャラリー及び画像データベースに継続的にデータを追加することで、利便性とサービスの一層の向上を図った。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいてコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。対馬宗家文書データベース、装飾古墳、郷土人形データベースを引き続き公開した。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて公開データを約500件追加し、情報の充実・拡充を図った。新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,840 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 14,047 件を登録し、既存データ 2,127 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・シーボルト旧蔵本 7 冊(5,559 カット)のデジタル撮影を行った。また研究情報アーカイブスのデジタルライブラリー及び「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において元年度デジタル撮影した洋古書の情報を更新した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 4,080 人)
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。(新規分 224 冊、遡及分 106 冊)
・~~前~~30 年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード貼付を 4,802 件実施した。
イ
・当館の列品を収載している図書について列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を継続して実施した。
・ProtoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報 2,744 件を作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースに参加した。データを蓄積することにより、レファレンスサービスの拡充と広報に資することができた。(2,801 件登録)
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。

【補足事項】

ア	新規受入図書	4,267冊		
	既存図書の遡及入力	466冊		
	逐次刊行物の新規受け入れ	2,573冊		
イ	当館開催展覧会カタログ	495件	他館開催展覧会カタログ	822件
	当館刊行図書	1,414件	当館刊行雑誌	13件

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画に定められた趣旨に則って、適切に資料の収集整理と公開を継続して行い、時宜に応じたサービスの改善を図っている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　30年度に引き続き、文化財情報システムについて館内業務に適応するため、登録や検索及び管理項目等の改修を行い、各作業の効率化を図った。
・画像ストレージの容量増強にかかる準備を進めた。
・調査、研究、教育等に資するため、新規図書2,963冊、逐次刊行物1,369冊を収集し、データベースへ登録した。

【補足事項】
ア　原版フィルムのスキャニング作業が順調に進み、画像ストレージの容量増強を進めるため、エンクロージャー(ハードディスク・ドライブを格納する筐体)を用意した。

納品されたエンクロージャー

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財情報システムの改修を行い、資料の管理や検索性が向上された。また、画像ストレージ増強にかかるエンクロージャーを用意し、今後のデジタル画像生成に必要な環境を整えた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、国内外の博物館における展覧会関連の調査・研究等に関する資料及び情報を計画通りに蓄積することができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1322C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。
　内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、システムに登録した（和書2,027冊、漢書32冊、洋書48冊、計2,107件）。写真については、デジタル撮影（4,752件）、既存原板のデジタル化（3,001件）、システムへの登録（4,465件）を行った。

【補足事項】
　資料・サービスを充実させたほか、海外からの研修の要請に対応した。国立国会図書館と交流を行っている中国国家図書館より代表団5名と、招聘側の国立国会図書館の国際交流担当者3名を受け入れた（11月10日）。当日は奈良国立博物館並びに仏教美術資料研究センターの概要説明、センターの事業紹介と見学を実施し、あわせて開催中の「第71回　正倉院展」を案内した。日中における情報サービスの実務に関わる情報交換を行うとともに、長きにわたる両国の親交をさらに深めるよい機会となった。
　また、図書管理システムのクラウド化を実施し、情報基盤の整備と安定稼働にも力を入れた。

クラウド化した図書管理システムの OPAC

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	資料の収集・蓄積、サービスの実施ならびに仏教美術資料研究センターの利用者数ともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成したとみなされる。さらに図書管理システムのクラウド化により、安定的な情報公開のための基盤整備にも努めた。

【中期計画記載事項】
　美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	この中期計画は、資料の収集と整理・蓄積を安定的に実施・継続することが最大の目標である。限られた予算の中で当初の数値目標を達成しているだけにとどまらず、海外からの招聘者の研修への対応や図書管理システムのクラウド化など、情報の発信と充実に多方面から取り組んでいる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1322D

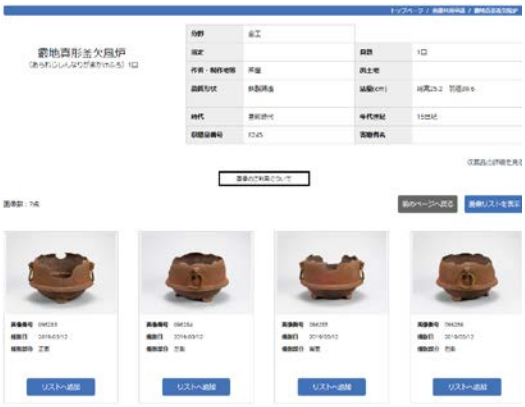
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
蔵書管理
・新規に図書577点、雑誌831点、図録・報告書2,435点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・閲覧室に保管する135,387冊の蔵書点検を行い、蔵書整理のための除籍や書架調整基準の見直しを行った。閲覧室外に別置する蔵書も含め、蔵書管理システムにおけるデータの点検・整理を実施し、より適切な情報利用環境を整えた。
画像管理
・文化財情報システムの一部として運用している画像管理システムに画像を3,403点追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が情報を活用しやすい環境づくりに寄与した。画像管理システムの改修を実施し、管理の効率化と外部サービス向上を図った。
・29年度に公開した画像検索システムに1,160点の画像を新規に追加し、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。

蔵書点検作業の様子



画像検索システムで新規に公開した画像

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　画像利用申請のうち5割以上が、29年度に公開した画像検索システムを活用して申請書が作成されている。申請件数も増加傾向であり、資料情報の発信及びその情報の利活用の促進に寄与している。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新規に図書577点、雑誌831点、図録・報告書2,435点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 当館の蔵書データを将来的に一般公開していくための基盤整備（図書データの書誌・目録整備を遂行）を推進した。画像管理システムは内容の充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。 元年度以降も図書目録整備を進める。画像に関しては、収蔵品の新規撮影を進め、年々増加している画像利活用のため公開できる画像を増やしていく。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 1323-1H

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。
ウ　文化財活用センターウェブサイトを開設し、センターに関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課 本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　伊藤進吾 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和元年度』（日本語版・英語版）を7月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト（https://www.nich.go.jp/）に掲載した。また、ICOM京都大会開催に合わせて概要発行部数を増刷し、参加者に配布した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成30年度』を2年1月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
ウ　文化財活用センターウェブサイトをリニューアルし、センターに関する情報の提供を行った。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和元年度』は日本語版2,600部、英語版1,800部発行した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成30年度』：200部、カラー4ページ・モノクロ962ページ
ウ
・文化財活用センターウェブサイト（https://cpcp.nich.go.jp）をリニューアルオープン（4月24日）し、利用者にとって必要な情報が探しやすいよう、サイトデザインや機能を一新した。あわせてロゴマークを制作した。
・ぶんかつブログ（https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/index.php/1/）を開始。2年3月末現在までに30本の記事を掲載した。
・ウェブサイトリニューアルとともに文化財活用センターSNS（Twitter／Instagram）の運用を開始し、より広く情報発信を行った。
・「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」への寄附ページを新たに公開し、ウェブサイト上からの寄附手続きが可能となった。

文化財活用センターウェブサイト

文化財活用センター

文化財活用センターロゴマーク

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画通り概要及び年報を作成した。また、ウェブサイトをリニューアルし、利便性を向上させ、年度計画に沿って順調に、センターに関する情報の提供を行った。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度はウェブサイトリニューアルに加えて、SNSを活用した情報発信や、文化財活用センターロゴマークの制作と活用など、中期計画通りに積極的な広報を行った。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-1A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】（4館共通）ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（東京国立博物館）総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　丸山士郎

【実績・成果】（4館共通）
ア　元年度年間スケジュールリーフレット（「東京国立博物館　展示・催し物のご案内」2019.4-2020.3）は、30年度同様体裁をA3二つ折とし、館内配布するとともに旅行社、メディア各社等に送付、周知を図った。また、2年度年間スケジュールリーフレットを70,000部作成した。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・50,000部)を作成、配布した。主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用しより広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。また各事業の特性に合わせて1,000件程度学校、ホテル等にチラシ・ポスターのDM発送を行った。周知にあたってはウェブサイト、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)も活用した。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」及び特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」、住友財団修復助成30年記念　特別企画「文化財よ、永遠に」、親と子のギャラリー／日本文化体験　「日本のよろい！」では、ポスター・チラシを作成、館内配布及びDM発送を行ったほか、プレスリリースをマスコミ等に発送・配信した。
ウ　広報大使として公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を活用、キッズデーなどイベント開催時を中心に登場して館内で来館者と触れ合うほか、博物館外でのイベントに参加、広報活動に努めた。公式キャラクターを用いたLINEスタンプを制作を開始し、2年度に完成、有料販売する予定で進めている。

【補足事項】
（東京国立博物館）
イ　新型コロナウィルス感染防止のための閉室により実際にご覧いただく機会が減少してしまった展示のうち、特集「おひなさまと日本の人形」(本館14室)などについて、展覧会場内で研究員が解説する動画を制作、「オンラインギャラリーツアー」と題しYou Tubeにて公開した。なお、SNSでは高評価のコメントが多数寄せられ、休館中の取り組みとして多くのメディアに掲載された。
ウ　30年度に引き続き、群馬県にて開催された「群馬古墳フェスタ2019」に参加。当館のPRブースを設置したほか、ミュージアムショップのグッズも販売するなど、館の広報に寄与した。

「群馬古墳フェスタ 2019」
（於：前橋市・日本キャンパック大室公園）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り定期刊行物及びイベント等の情報を発信し、マスコミ報道を獲得した。また、夜間開館のPRを実施した。公式キャラクターについては、キッズデー、トーハクビアナイトなど適正な時機に登場し、来館者が博物館に親しんでいただけるよう活動したほか、「群馬古墳フェスタ」イベントに参加するなど、公式キャラクターを活用した広報活動を充分に行うことができた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり個々の企画等について、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開し、一般及びメディア媒体への認知度を着実に高めることができ、また、LINEスタンプの制作を開始するなど、中期計画の達成に向け順調である。2年度はウェブサイト・SNSを活用した広報活動をさらに推進していきたい。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの配布（元年度分）及び製作（2年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア
・新春特集展示のポスター（1,850部）、チラシ（115,000部）の製作・配布を行い、他に特集展示等のポスター、チラシの製作・配布を行った。
・各種イベントのポスター、チラシ（落語会32,000部、留学生の日9,000部等）の製作・配布を行った。
・Kyoto National Museum Guide 2019（5,000部）の製作・配布を行った。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。
ウ　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、広報活動を行った。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・ICOM京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝―美を守り、美を伝える―」では、通常のポスター・チラシに加えて、英・中（簡・繁）・韓対応のチラシ、うちわ型のチラシを製作した。図録についても4言語（日、英、中、韓）で作品解説を付した。特集展示「赤ってじつはどんな色？」においてはチラシ・ワークシート、特集展示「雛まつりと人形」ではリーフレットを製作、配布した。
・新春特集展示のポスター、チラシに2年1月より開催の新春特集展示「子づくし」、特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」、特集展示「神像と獅子狛犬」の情報を掲載した。
・公式キャラクターを活用し、当館の収蔵作品について研究員が平易な言葉で日本美術を紹介する「トラりんと学ぶ日本美術」（淡交社）の監修を行った。
イ　博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の竹下景子氏、藤原紀香氏を任命した。文化大使は特別展開会式に登壇し、ブログ等により展覧会の広報を行った。
ウ
・トラりんのブログやツイッター、フェイスブック、YouTubeチャンネルを運用し、展覧会や博物館の情報を発信した。
・トラりんを最大毎週3日、1日5回（展覧会により異なる）館内に登場させ、来館者と触れ合うことで親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。
・埼玉の全国的なキャラクターイベントや京都、兵庫、奈良の他博物館や動物園、植物園、大型ショッピングモール等にトラりんを出張させ、キャラクターを通じて幅広く当館をPRした。
・キャンパスメンバーズ加入校をトラりんが回り、キャンパスメンバーズの特典を広報し、特別展への来館を促した。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、閉館中の展示品を紹介する動画を作成し、YouTubeチャンネルで紹介した。その様子はNHK京都のニュース番組でも紹介された。

京都国際マンガ・アニメフェア2019に登場するトラりん

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物の作成及び年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を充分に行うことができた。また、外国人観光客を意識したチラシの製作や、公式キャラクターを活用した刊行物を監修するなど、当館の認知度が向上できた。また、公式キャラクターを活用して各種施設やイベントへ出演、ブログやツイッターでも継続して情報発信するなど、当館に馴染みのない層へもPRできた。 以上のことから、年度計画を超える実績を達成することができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画4年目として、広報印刷物の製作及び当館ウェブサイト上の公式ツイッターや公式キャラクターなどの多様な媒体を活用し、積極的な広報を行うことができた。2年度についても広報の範囲を広げ、積極的に広報活動を行いたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・年間スケジュールリーフレットを2回発行し、配布を行った。また、ウェブサイトからのリーフレットのダウンロードサービスを継続して行った。
・特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」において、小学生の子どもを対象にワークシート「藤田でんざぶろうからの挑戦状」を制作・配布した。
・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」では、ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」を制作・配布した。
（奈良国立博物館）
ア
・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を6回実施した。
・特別展の割引券を4言語表記で作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、出演するテレビやラジオ等で博物館のPRをしていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、テレビ番組の取材、ラジオ番組の公開録音、ミュージシャンのコンサート、大学案内の撮影場所、雑誌の撮影場所、ブライダルの前撮り撮影場所等として茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」は、4言語（日・英・中・韓）を制作した。

ラジオ番組公開録音

ワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	30年度から引き続き笑い飯・哲夫氏を文化大使に任命し、博物館のイメージアップに繋げることができた。また、FMラジオの公開収録の会場として施設を提供し、番組内で博物館のPRを行った。 4言語（日・英・中・韓）表記での割引券を近隣社寺や観光案内所に配布する等、外国人観光客を取り込むための対策を実施した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことを図った。「いのりの世界のどうぶつえん」では奈良県下等の小中学校の全生徒へチラシを配布する等、積極的な広報活動を行った。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
ウ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
エ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　石原隆之

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴い、担当研究員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行った。マスコミによる広報・宣伝を行った。
イ　ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブサイトから詳細な展示品情報を提供した。
　外国人観光客へ向け、当館ウェブページ上で英語・中国語・韓国語での展示案内を行った。
ウ　空港・JR・ホテルなどと連携し、ポスター、チラシなどによる広報展開を行った。
　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツのほか、参道フラッグやアンテナショップの日除け幕等を活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図った。
エ　アンテナショップ入り口に特集展示バナーを設置し、太宰府天満宮参拝客への展覧会PRを図った。

JR 博多駅構内での広報の様子

ウェブサイトでの館蔵品「針聞書」の PR アニメの配信

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア・参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
ウ・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。
　・既存の広報展開先に加え、佐賀空港やJR九州（長崎・鹿児島）、市内ホテル及び県内書店などと連携し特別展広報を実施した。
エ・特別展、特集展示の告知強化のため太宰府観光協会と協力し、参道フラッグ掲出に取り組んだ。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 既存の広報先だけでなく、空港や駅などの利用者を対象とした広報活動を展開させた。特に国際線の就航している空港や旅行者が利用する駅やホテルなど、インバウンドを見込んだ情報提供を行い、計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、多様なメディアを用いて幅広い広報を実施することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 室長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を行った。
（東京国立博物館）
ア　特別展・特別企画・特集展示及び教育事業についてマスコミ向けに情報を送付するとともに、記者発表会を6回、報道内覧会を11回開催した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第1ターミナルに当館収蔵品画像を使った壁面・天井装飾を本年度も引き続き実施した。
（東京国立博物館）
ア　特別展などで報道内覧会の実施、プレスリリースの発信を行ったほか、親と子のギャラリー／日本文化体験「日本のよろい！」(7月31日)でもツアー形式の報道向け体験会を開催した。新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し、新聞・テレビなどで紹介された。また、総合文化展内の企画である特別企画「文化財よ、永遠に」でも報道内覧会を実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベント情報の広報を積極的に実施した。また、「UENOYES2019」のイベントに協力するとともに、上野地区のクラスター形成事業「Tokyo Ueno Wonderer」(3月末公開) サイトでの広報活動などにおいて中核的な役割を果たした。

親と子のギャラリー／日本文化体験「日本のよろい！」報道向け体験会

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回60名～260名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。なお、特別企画「文化財よ、永遠に」では、総合文化展内の企画であったが、多くの報道を得た。また、上野文化の杜新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、台東区等の地域と連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。2年度以降も、新聞主要紙・美術系番組など影響力の高い媒体に取り上げられるよう努めていく。

【中期計画記載事項】(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおりマスメディア向けの内覧会を実施することなどにより、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めており順調である。また、展覧会の報道内覧会は、展覧会によって参加者の数に大きな違いがあるので、毎回多くの参加者を得るように取り組んだ。さらに、上野文化の杜新構想実行委員会の広報活動への先導的な役割を果たすなど、台東区等の地域と連携した積極的な広報を行った。なお、成田国際空港第1ターミナルの壁面装飾によって訪日外国人への広報効果を上げることができている。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（京都国立博物館）
ア　地域等が主催する各種委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、JR東海と連携して、当館を会場に夕暮れを鑑賞しながら飲食する特別なイベントを5日間実施した（参加者数436名）。また、JR東海が持つ広報媒体やインフルエンサー等を活用し特別展の広報を展開させた。
・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、共催のNHK京都放送局・NHKプラネット近畿と協力して8Kを含む特別番組を複数製作し、「佐竹本三十六歌仙絵」の認知度を上げ、特別展の露出を増やした。
・2年度特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」の首都圏向け記者発表を共催者と連携して実施した。
（京都国立博物館）
ア　周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会や地元の商店街の会合に参加し、地域連携の企画等を検討した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し、4館を巡るスタンプラリーを実施した。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・国際アートフェアartKYOTO（京都市等、artKYOTO実行委員会が主催）と連携し、artKYOTO各種広報物において、特別企画「京博寄託の名宝」の広報活動を行った。
・記者発表を4回行った。
・特別企画「京博寄託の名宝」においてはPR会社へ広報を委託、各媒体への周知を図り、交通広告を出稿した。またうちわ型ちらしについては、一部祇園祭の山鉾やミュージアムパートナー企業である弥栄タクシーへ協力を依頼し、関西国際空港からのリムジンタクシーでも配布を行った。

特別企画「京博寄託の名宝」うちわチラシ

・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」では、人気漫画「ちはやふる」とのコラボ展示を行った。
・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」の記者発表では、札所寺院で販売している菓子について「スイーツ巡礼」として紹介した。
・当館明治古都館のプロジェクションマッピングと庭園における和食イベント「光と食のアンサンブル2020」に協力し、当館で開催予定であったが新型コロナウイル感染症拡大により中止となった。
（京都国立博物館）
ア
・地域連携の一環として、京都市が主催する京都駅東部七条界隈における周遊促進事業「七条つながる商店街スタンプラリー」に協力し、当館がスタンプポイントになり、地域連携を図った。
・京都国際マンガ・アニメフェア2019（京まふ）と特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」が連携し、京まふの記者発表を当館で開催したほか、ウェブサイトの相互リンクやチラシの相互設置等、広報面で協力した。また、トラりんが京まふ会場に登場し、特別展のPRを行った。
・ICOM京都大会開催を記念して、京都文化博物館及び京都国立近代美術館と大会期間中に両記念展覧会の相互広報及び相互割引を実施した。（京博来館者112名）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 従来の広報活動に加え、「ちはやふる」とのコラボなど若年層への認知度を上げるための広報活動を行い、特別展の集客へと結実させた。記者発表自体に新たな試みを盛り込むなど広報を意欲的に行い、年度計画を十分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画4年目として、ミュージアムパートナーと連携し、京都という立地を生かした広報活動を充分に行うことができた。引続き京都という立地を生かした広報を展開し、集客へと繋げていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-2C

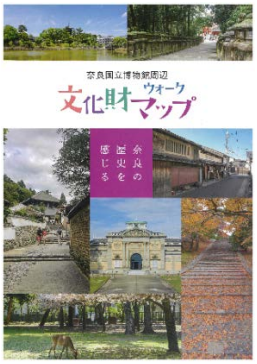
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。
（奈良国立博物館）
ア　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社国宝殿で開催した「安綱・古伯耆展」と相互割引を実施した。また特別陳列「お水取り」では、東大寺ミュージアムで開催した特集展示「二月堂修二会」と相互割引を実施した。
イ　展覧会の開催にあたり、報道機関向けの内覧会（プレスプレビュー）を、特別展で３回、特別陳列で２回、特集展示で１回の計６回開催した。このほか、テレビ局、新聞社、雑誌社からの個別の取材依頼には、できる限り対応し、展覧会及び博物館活動の広報、研究成果の周知と理解促進に繋げた。
ウ　元年度も文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」で採択され、地元自治体と連携して当館を中心に近隣の文化財施設を散策できる「文化財ウォークマップ」を日英中の３言語で作製し、近隣の大学、観光協会及び道の駅等に配布したことで、奈良博周辺の活性化に繋がる事業を実施した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。

【補足事項】



奈良国立博物館周辺
文化財ウォークマップ

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努めた。また、公共交通機関とタイアップしての広報活動も行うことができた。元年度は関係社寺との連携を強化して相互割引を実施する等、地域活性化となる広報活動を展開して集客増に繋げた。

【中期計画記載事項】
示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、マスメディアと協力した広報活動を実施できている。2年度以降も地元自治体や近隣社寺との連携を更に強化し、奈良公園だけでなく、奈良公園と近隣美術館・博物館を含めた共通観覧券を作製する等、積極的な広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　主要駅でのデジタルサイネージの掲出や車内ポスターの掲示等、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア　マスコミ各社を対象とする懇談会を実施した。
イ　太宰府観光協会と連携して太宰府天満宮参道での告知フラッグを設置した。また、商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、「季刊情報誌アジアージュ」を送付し、商工団体会員等への周知を依頼する等、地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
ウ　福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」に当館の情報を掲載したり、九州観光推進機構が主催する「九州インバウンド商談会」で当館のチラシを配布する等、海外への広報・営業活動を展開した。
エ　古都太宰府ナイトエリア創出委員会や九州国立博物館を愛する会と「花菖蒲コンサート」等の地域連携イベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）

地域連携イベント①
「花菖蒲コンサート」
（6 月 1 日、2 日、8 日、9 日）

地域連携イベント②
山鹿の灯「山鹿灯籠踊り」
（10 月 26 日）

太宰府古都の光（9 月 25 日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度も引き続き、ポスター・チラシなどの制作や活用を行ったほか、夜間開館に合わせ、「太宰府古都の光」等、古都太宰府ナイトエリア創出委員会によるイベントを実施した。近隣地域の諸団体と連携したイベントを実施したことで、夜間開館の周知を図ることができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
30年度に引き続き、中期計画のとおり、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。また、夜間開館について、近隣地域の諸団体と連携し、特集展示に関連した新たなイベントを打ち出すことができた。2年度以降も諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1323-3A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年６回）
イ　ウェブサイトでは、ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　今井敦 室長　丸山士郎

【実績・成果】（４館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
イ　メールマガジンを配信した（27回）。また、メールマガジンをより読みやすいようにリニューアルした。
（東京国立博物館）ア　『東京国立博物館ニュース』を隔月（年6回）で各50,000部を制作、配布・送付した。
イ　ブログ86エントリー、動画を使ったSNS配信により展示・催しもの、またキャラクターの活動等について紹介し、博物館に親しんでもらえるよう努めた。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。

【補足事項】（４館共通）
ア　当館ウェブサイトの中国語（簡体字)、韓国語ページについて日本語・英語ページと同等程度の情報を掲出できるよう改修を行った。なお、公開は2年4月末の予定。
イ　メールマガジンに関するアンケートを実施し（回答3,152名)、読者の要望等を把握したうえで、文章のみであったものから、画像を多く掲載してより読みやすい構成にリニューアルした。リニューアル版の配信は2年1月14日より実施。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』について、より読みやすい紙面となるようリニューアルを検討し、2年6月号から実施する予定である。
ウ　ツイッター：フォロワー76,656件(30年 度66,652件)、フェイスブック：いいね！32,186件（30年度29,217件)。30年度より着実に数を伸ばしている。また、28年8月30日アカウント開設以来 、インスタグラムではフォロワー15,787件（30年度8,223件）を獲得し、2年度はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。

東京国立博物館メールマガジン（リニューアル版）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化※1･2		27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数※1	8,235,810件	5,380,118件	S		①	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851
					②	7,427,419	7,427,419	—	—

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】メールマガジンを読みやすい構成にリニューアルし、ウェブサイトのアクセス件数は目標値以上の成果を達成し、SNSのフォロワー数も充分に確保できていることから、充分に計画を達成している。今後はツイッター、インスタグラムのフォロワー数をさらに増やすとともに、ツイッターのクイズ機能等の活用、若年層に訴求するような画像を発信し、新たなユーザー開拓を図りたい。

【中期計画記載事項】（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】広報印刷物やウェブサイト等の活用は計画通り実施している。ウェブサイトについて、アクセス件数は順調に増加しており、前中期目標の期間の実績を超えている。また、『東京国立博物館ニュース』について、より親しみやすい紙面の検討を始めた。

※1　29,30 年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-3B

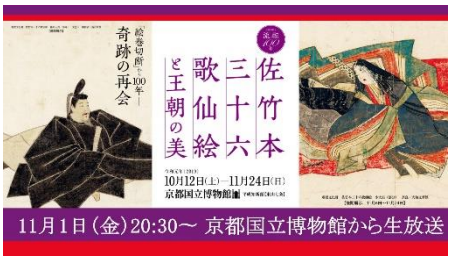
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は 4,948,829件であり目標値を上回った。
イ　メールマガジンを12回配信した。(157～169号)
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(202～205号)、『Newsletter』(141号～144号)の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー(208～220号)を発行し、新刊をウェブサイトで公開するとともに、メールマガジンにて配信した。
エ
・当館公式ツイッターに加え、公式キャラクター「トラりん」のツイッターやフェイスブックを利用して情報発信を行った。
・当館寄託品「風神雷神図屏風」（俵屋宗達筆）を主題とした小説を発表した小説家の原田マハ氏と当館館長・研究員によるトークイベントを開催し、文化財や当館の研究、展示、教育等の活動をPRした。

【補足事項】
（４館共通）
（京都国立博物館）
ア　特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」において、WEB媒体を使用して展覧会の見どころを紹介する生放送を行った。生放送中、2年度の展覧会についても簡単に紹介した。
エ　新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全館臨時休館にあたり、公式キャラクター「トラりん」のブログにて、名品ギャラリーの展示内容を紹介した。また展示作品を紹介する動画配信も行った。



ニコニコ生放送バナー

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	4,948,829件	2,274,464件	S		3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数が国宝展に次ぐ値となっており、数値目標を達成している。ウェブサイトの定期的な更新、メールマガジンの配信、SNSを活用した情報発信などに加え、定期刊行物の発行などを行い、年度計画は充分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数は目標値を大幅に上回り、早めに特別展の情報を掲載し積極的にウェブ媒体を使った情報発信を行うなど、中期計画4年目として順調に進捗することができた。今後も適宜ウェブサイトの改善を行い、アクセス件数の向上を図っていきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-3C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS（Twitter）による情報発信を行う。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。
エ　外国語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　岩井共二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展や公開講座の企画や、名品展の展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。ウェブサイトのアクセス件数が 1,704,901 件となった。
イ　特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月 1 回、計 12 回）で約 7,000 人に配信。
（奈良国立博物館）
ア　名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った。（年４回）
イ　名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載。さらに SNS（Twitter）でフォロワー約 20,000 人に発信し、より迅速かつ効率的な情報発信を行った。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ　特別展、正倉院展、なら仏像館について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報発信を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には郵送で提供した。
イ　公式Twitterのフォロワー数は、30年度から2,000人ほど増加した。
エ　元年度は、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」でも外国人観光客を意識して、外国語チラシ（英・中・韓）を作成・配布した。

「いのりの世界のどうぶつえん」
外国語チラシ（英・中・韓）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	1,704,901件	953,946件	A		1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	30年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。ツイッターフォロワーは昨年から2,000人増加し、20,000人を超えた。ウェブサイトアクセス件数についても30年度を越えた点は、当館から発信される情報に対する関心が高まった結果であり、大きな成果といえる。

【中期計画記載事項】
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイトアクセス件数及び公式ツイッターのフォロワーは増加しており、特に同ツイッターによる迅速かつこまめな情報発信により、時宜的なニーズにかなった広報として効果を上げている。また、特別展や特別陳列等における外国人観光客の来館者も増えており、外国人への情報発信に一定の効果が見られる。 2年度以降も引き続き、ウェブサイトやSNSでの発信、多言語チラシ作成等、積極的に各種広報を展開していく。

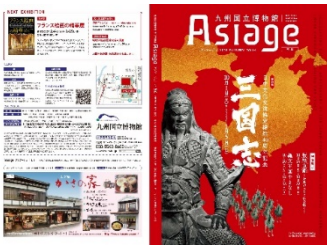
【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-3D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　４言語(日・英・中・韓)によるウェブサイトでの情報提供を行う。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。(年４回)
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　石原隆之 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　リアルタイムな展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ　リアルタイムな展示・イベント情報等のメールマガジンを月２回配信した。
（九州国立博物館）
ア・利用案内に係る記載で分かりにくい表現等の一部見直しを行うなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。
・TVQ 九州にて月 1 回放送している、太宰府と当館の見どころを紹介する番組の動画をウェブサイトにて配信した。
イ　ウェブサイトの４言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行った。(年４回)
エ　イベント情報や展示替え情報、駐車場の混雑状況だけでなく、館外の自然景観やショップの新商品の案内等、当館へ足を運びたくなるような情報を SNS（ツイッター）による発信で継続して行った。



季刊情報誌「アジアージュ」

TVQ 九州の番組動画の配信

【補足事項】
（４館共通）
ア　駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ　メールマガジン登録数（7,375件）は毎月平均43人ずつ増えており、また、平均開封率が10%といわれている中、約40%と高水準を維持している。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
ウェブサイトのアクセス件数	2,047,955件	1,696,500件	A		2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の満車状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。その他、30年度に引き続きウェブサイトのアクセス数、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。ブログ、ツイッター等を活用し、展示情報やレストラン、ショップ等観覧環境についての情報をリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。特にツイッターのフォロワーは順調に増えてきており（12,847人、日平均増加数：336人）、新たな広報ツールの効果が出ている。 2年度以降も館内に設置する広報委員会において広報計画を策定し、広報活動を展開していく。